

# 2017年度学校評価結果と2018年度重点目標

2018年4月  
恵泉幼稚園

## 1. 本園の教育理念・教育目標・教育方針

恵泉幼稚園は、高橋誠一が、「神は愛である」というキリスト教の教えに立ち、1935年（昭和10年）に設立した幼稚園です。幼いときに、自分が愛され、守られていることを感じる事ができ、幼児の豊かな心、健康な体、考える力を育みます。生きる力の基礎を培い、子どもとともに、育ち合う園であり続けます。

### 【教育目標】

意欲のある子ども  
思いやりのある子ども  
感性豊かな子ども  
感謝できる子ども を目指します。

### 【教育方針】

一人ひとりの個性を生かし、興味・関心に合った環境を作る  
ありのままの自分が受け入れられていることを知り、遊びを中心とした生活の中で  
思いやる心を育んでいく  
自然豊かな広い園庭で、季節に触れ、美しさや尊さを感じる  
祈りを通して、神様に愛され、守られ、たくさんの恵みを与えられていることに  
感謝する心を育てる

## 2. 2017年度の振り返りと2018年度重点的に取り組む目標・計画

### 【2017年度、重点的に取り組む目標・計画】

- ・自分でやってみようとする「意欲や態度」を育てる。（育ちの連続性から見て）  
補足：自分の身の回りのことができるようになり、自信をつけた子どもたちの力を、今後の園生活や様々な活動に進んで取り組もうとする「意欲や態度」に繋げ、自分を信じる気持ちに結びつけられるよう関わっていきます。
- ・幼稚園全体に流れる、落ち着いた、ゆったりとした雰囲気を中心とした教育を大切にします。

### 【2018年度、重点的に取り組む目標・計画】

子どもと共に育つ教師

- ・子どもたちは、教師を通して様々なことを吸収し、学んでいく。  
子どもにとってふさわしい教師の役割を考え、理解し、自覚する。
- ・「教師は、子どもと共に園生活を創り、楽しみ、共に育ち合う存在である」  
そのための学びを深める。

【2017年度、重点的に取り組む目標・計画】を振り返りました。

2016年度、「生活習慣の自立として、自分のことは自分です」ことに取り組んだ子どもたちが進級し、身の回りの自立は、家庭で甘える子どもも、幼稚園では一人ひとりが挑戦し頑張った姿を見せ、取り組みの成果を感じました。

2017年度は、その育ちの上に、生活習慣以外の活動へ向かう「意欲や態度」を積み重ね、一人ひとりの中に育ってきた自立心や意欲、意欲に向かう態度を自分たちの生活に生かし、可能性を広げていかれるよう取り組みました。

子どもたちは自分の身の回りのことができるようになり、そこでついた自信は、幼稚園の様々な活動に自ら「意欲」を持って参加しようとする気持ちに向いていきます。ここで教師は、その発達をよりよい成長に繋げるために、ふさわしい「働きかけ」を試みます。

子どもが初めから「できない」と不安になったり、自信が持てずにいる場合は、慰めたり、褒めたり、誘ったり、また、「やりたくない」と投げやりになったときは、内面から起きる

「やってみよう」とする気持ちや態度を引き出し、自信を持った子どもには、更なる挑戦に向かいたいくなる働きかけをし、自分では一步を踏み出せずに躊躇しているときには、励ましや方向付けをしなが、一人ひとりに合った援助の働きかけを行います。併せて、一人ひとりの「伸びしろの幅」にじっくりと付き合い、見守ることも重要になります。それは直接的な働きかけを急がず、子どもの中の準備が整い、自分で歩み始めるまでの充実する機会（熟成中）として捉えながら「働きかけ」のタイミングを見極めていくというもので、子どもも教師も「もう大丈夫」と思えるまで寄り添います。

「働きかけ」は、子どもたちにとって「意欲」に繋がるものでありますが、教師の一方的な思いが高じて、行き過ぎてはいけません。あくまでも、「意欲」を持つのは子どもで、「子どもが主体」であるということ、つまり、教師が働きかけたことであっても、教師による働きかけの結果ではなく、子ども自身が「自分で一步を踏み出すことができた」という「子どもが主体」の実感が、教育の営みの中には欠かせません。

そして、「働きかけ」は、子どもたちのやる気を起こし、自分の生活にとって心地良いものであり、安心感や満足感をもたらす、子どもたちの生活をより豊かにしていくものでなければなりません。このような「働きかけの質」が子どもたちの成長・発達を左右するという意識を持って、実践の中で生かしていかなければなりません。

以上、重点目標「自分でやってみようとする『意欲や態度』を育てる（育ちの連続性から見て）」を、「働きかけ」の観点を通して振り返りました。教師の一方的な見方による決めつけや押しつけではなく、子どもと応答的な関わりを通した働きかけの先に見えてくる、子どもたちの成長は、教育に携わる教師に喜びを与えてくれます。しかし、ときとして、子どもの願いや見せる姿と、教師の見方のずれに気付かされ、一人ひとりの成長の仕方や考え方、学んでいる姿を尊重した理解に改めていく姿勢を、持たなければなりません。

・幼稚園全体に流れる、落ち着いた、ゆったりとした雰囲気や大事にした教育を大切にします。

「幼稚園教育は、環境を通して行われる」ものです。言い換えると「子どもを取り巻く物的環境・人的環境が、健やかな心身の成長、発達を促していく」ということになります。

教育的環境を考えたときに、教師は子どもの成長・発達を促す人的環境としての役割を持っていますので、その自覚を持って幼稚園教育に努めなければなりません

重点目標に掲げた「幼稚園全体に流れる、落ち着いた、ゆったりとした雰囲気」は教師からにじみ出るものです。子どもたちはその雰囲気を通して、教師が自分の心に寄り添い、教師から愛され、受け入れられていることを実感していきます。

教育環境を整えるということは、遊びが充実するための設備等の物的環境、心の育ちに欠かせない自然環境、そして、子どもたちが安心して心を開き、信頼を寄せられる教師の存在、人的環境が整えられていることが、幼稚園教育の質を高め、幼稚園教育の目的である「健やかな心身の成長、発達」を促がしていくことに繋がっていきます。

### 【まとめ】

「子どもが主役—子どもが主体」を幼稚園生活、幼稚園教育の営みの中心に据え、子どもたちは、その生活を通し、すぐに満たされる事や、やりたい事ばかりではない経験の中で葛藤し、その過程で掴んだ譲り合いや楽しさの心地良さは、よりよい人間関係を育てる種となって心に蒔かれました。その種は将来、子どもたちが「よりよい社会を創っていこう」という考えを持ち、周りの人と共に生きる嬉しさを感じる「希望の花」になることを信じて、幼稚園教育にあたってきました。

2018年度は、子どもたちに向けた重点目標ではなく、恵泉幼稚園の教育を委ねられている教師が、心して取り組む目標として掲げました。

恵泉幼稚園は、教師と子どもたち、そしておうちの方と心を通わせ、手を携えて、子どもを育てていくことを大切にしています。そのことが実行されていくためには、前述のように子どもたちのより良い成長を促す者として、ふさわしい役割を自覚しなければなりません。

その役割とは、

- ・子どもたちが行っている遊びや活動の理解者であり、援助者であること
- ・子どもの共感者であること
- ・憧れを持つモデルであること

上記は、一般的に示されている教師の役割ですが、創立者、高橋誠一は、よき教師であるようにと、説いています。

私たちは、欠けているにもかかわらず、そのありのままを受け入れられて、歩むことができます。しかし、そこに甘んじることなく、よき教師、よき大人としての高い目標を持ち、恵泉幼稚園の教師として努力してまいります。

また、私たちは、子どもたちの傍らにいることを通して「子どもたちはかけがえのない存在である」ということを感じるができます。

これからも、子どもたちの幸せを願い、子どもの素晴らしさをお伝えできるように、初心に戻り、教師のあるべき姿を心して、2018年度を迎えたいと思います。

### 3. 学校評価結果の取組み

評 価 項 目	取 組 み 状 況
「おうちの方の学校評価」を実施。評価項目別に採点を集計し、自由記述の意見をまとめました。	意見を参考に、幼稚園の環境や教育活動を振り返り、改善点を見出しました。
教員の自己評価（自己課題の設定と課題への自己評価）を実施。	「教員自己評価」をもとに、子どもとの関わり、おうちの方との連携、教育の原点を見つめ直し、良い点は伸ばし、不十分な点は改め、新年度、向上していけるように努めます。